

問題文

- 16 2アウト、走者満塁。打者が投手前にゴロを打った。投手はそのゴロを取り、本塁へトスしたがセーフとなった。捕手は一塁へ転送しようとしたが、得点した三塁走者に妨害された。この得点は認められない。

回答

( ○ )

参照 6.01(a)打者または走者の妨害(5)

アウトになったばかりの打者または走者、あるいは得点したばかりの走者が、味方の走者に対する野手の次の行動を阻止するか、あるいは妨げた場合は、その走者は、味方のプレーヤーが相手の守備を妨害(インターフェア)したもものとして、アウトを宣告される。

【解説】 上記規則と合わせて同項【原注】、【注】も参照必要。

問題文

- 17 打者走者が、明らかに併殺を行わせまいとして、故意に打球を処理している野手を妨害した。打者走者と本塁に最も近い走者のアウトを宣告する。

回答

( ○ )

参照 6.01(a)打者または走者の妨害(7)

打者走者が明らかに併殺を行わせまいとして故意に打球を妨げるか、または打球を処理している野手を妨害したと審判員が判断したとき、審判員は打者走者に妨害によるアウトを宣告するとともに、どこで併殺が行われようとしていたかには関係なく、本塁に最も近い走者に対してもアウトを宣告する。この場合、ボールデッドとなって他の走者は進塁することはできない。

問題文

- 18 ファウル飛球を追った捕手が、攻撃側ダッグアウトの中に身体を伸ばして捕球しようとしたが、中にいた選手が妨げとなって捕球できなかった。守備妨害が宣告され打者をアウトにする。

回答

( ○ )

参照 6.01(b)守備側の権利優先

攻撃側チームのプレーヤー、ベースコーチまたはその他のメンバーは、打球あるいは送球を処理しようとしている野手の守備を妨げないように必要に応じて自己の占めている場所(ダッグアウト内またはブルペンを含む)を譲らなければならない。走者を除く攻撃側チームのメンバーが、送球を処理しようとしている野手の守備を妨害した場合は、ボールデッドとなって、打者はアウトとなり、すべての走者は投球当時占有していた塁に戻る。走者を除く攻撃側チームのメンバーが、送球を処理しようとしている野手の守備を妨害した場合は、ボールデッドとなって、そのプレイの対象であった走者はアウトとなり、他のすべての走者は、妨害発生の瞬間に占有していた塁に戻る。

【解説】 ※公認野球規則では『○』だが、白山市学童野球連盟では選手の安全を考慮しローカルルールをさだめている。ベンチに片足でも入れて捕球が必要と認められた飛球は、打球が飛んだ時点でファウルボールを宣告しボールデッド、走者がいればこれを戻し、打者は打ち直しとする。ただし支部をまたぐ大会等では上記回答のとおりである。